

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878

洞光院 枯山水庭園 すばらしいです。



2019/11/21

「ここでも地球温暖化の原因を求めてみる。」
上は洪水で、下は火事、これにあり。お決まりのなぞなぞも近頃は「お風呂」という答えが、子どもから出てこないということがある。そんな風呂に入ったのも風呂自体を見たこともなるほど遠い昔のことである。
気候変動が進む現代ならば、答えは地球だろうか。北半球の街に水があふれ、南半球の森では火が燃え盛る。
イタリアのベネチアが高潮で水没して、ここ五十年で最悪の水位という。死者が出て、建物も大きな被害を受けた。いすれ住めなくなるのではないかと、住民の不審の声も報じられていた。
ベネチアは過去にも水に漬かっていたといえ、近年は水害の多さと悪化が度々

越しているようだ。専門家が気候変動の原因の第一に挙げている。
オーストラリアの東部で続く森林火災も最悪のレベルという。
森林火災と何度も経験してきた国であるが、近年は夏の猛暑が続くと乾燥する季節の到来が早いようだ。
ここでも地球温暖化の原因を求めている。
自然災害の原因が気候変動であると証明するのは簡単ではないだろうが、相次ぐ災害、疑いは強まっています。あんなに洪水、火事、火事、火事、地球にはならない。



2019/11/21

洞光院の住職と一緒に思い出撮り。

英語で発信するとは、英語というグローバル言語を操る多様な人々に伝わるよう、開かれた表現で語ることを含む。日本語が話せること、英語の枠組みや知識を前提とすることができ、だが、英語ではそうではなく、「通じない」ことが前提になる。この異文化に対する自己表現の力は、日本語、英語を問わず、実際の経験を通じて培われる他ないだろう。
そうであれば、重要なのは、日々の教育現場にも、異文化コミュニケーションの機会を増やすことではないだろうか。

英語力より異文化接触

「英語で発信する」とは、英語というグローバル言語を操る多様な人々に伝わるよう、開かれた表現で語ることを含む。日本語が話せること、英語の枠組みや知識を前提とすることができ、だが、英語ではそうではなく、「通じない」ことが前提になる。この異文化に対する自己表現の力は、日本語、英語を問わず、実際の経験を通じて培われる他ないだろう。
そうであれば、重要なのは、日々の教育現場にも、異文化コミュニケーションの機会を増やすことではないだろうか。

真剣勝負



2019/11/21



2019/11/21

坐禅を終る子どもたち、またこれから続くよ。

「どしどし、子どもが話せる。言語運用能力がアップした。従来の読書に、聞くに加えて「書く」のが特徴だ。」